

都市計画道路における民地との 接続方法の検討

株式会社 カナコン
岩尾 夏奈

◆ 目的

道路設計において、民地が近接している状況にて**現況道路を拡幅する**例は多数あり、そのため**民地との接続が課題**となることが多い。



本発表では、**都市計画道路**において、**民地との接続方法を検討した事例**を紹介する。

◆ 紹介事例概要

2

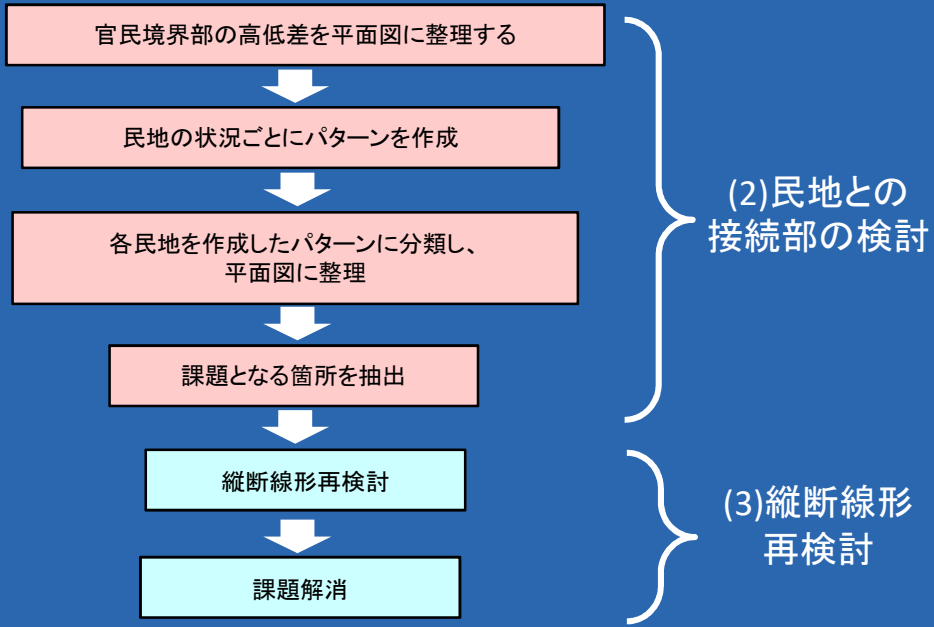
1. **予備設計にて仮決め**した縦断にて、道路詳細設計を行った
2. 民地内の追加測量等が行われた関係で**改めて民地接続方法の検討**をした
3. これにより、**課題点を発見でき**、縦断線形再検討を行い、**課題解消した**

◆ 目次

3

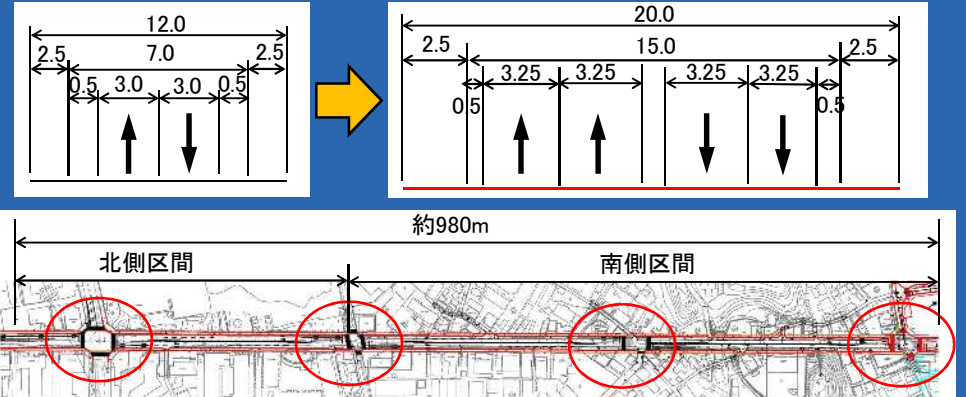
- (1) 対象路線概要
- (2) 民地との接続部の検討
- (3) 縦断線形再検討
- (4) まとめ

◆検討フロー



(1)対象路線概要

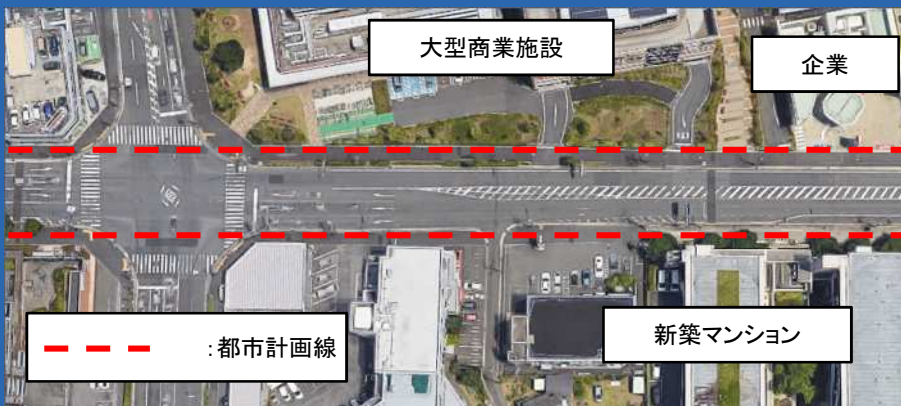
- ・横浜市内の都市計画道路
- ・路線区間：約980m
- ・概ね300mの間隔で4箇所の信号交差点
- ・現道幅員12m⇒計画幅員20m：両側に4mの拡幅



(1)対象路線概要

【北側区間】

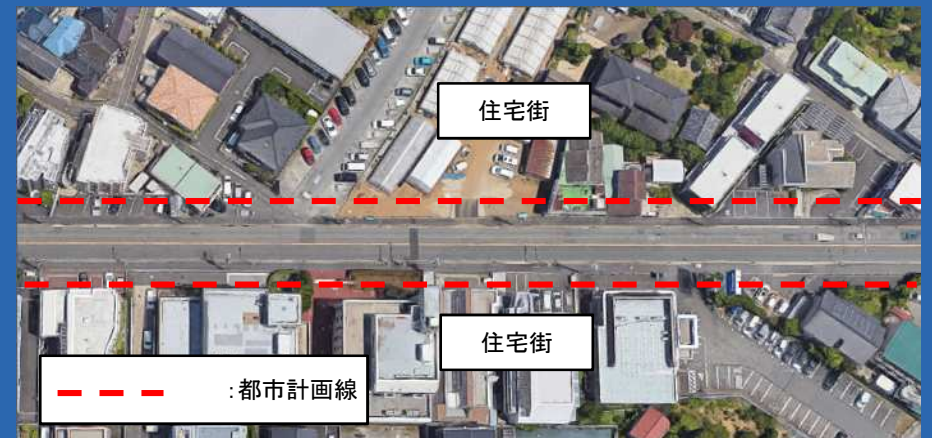
- ・隣接地の開発などに合わせて用地買収済みである
- ・大型商業施設や新設マンションが立ち並んでいる



(1)対象路線概要

【南側区間】

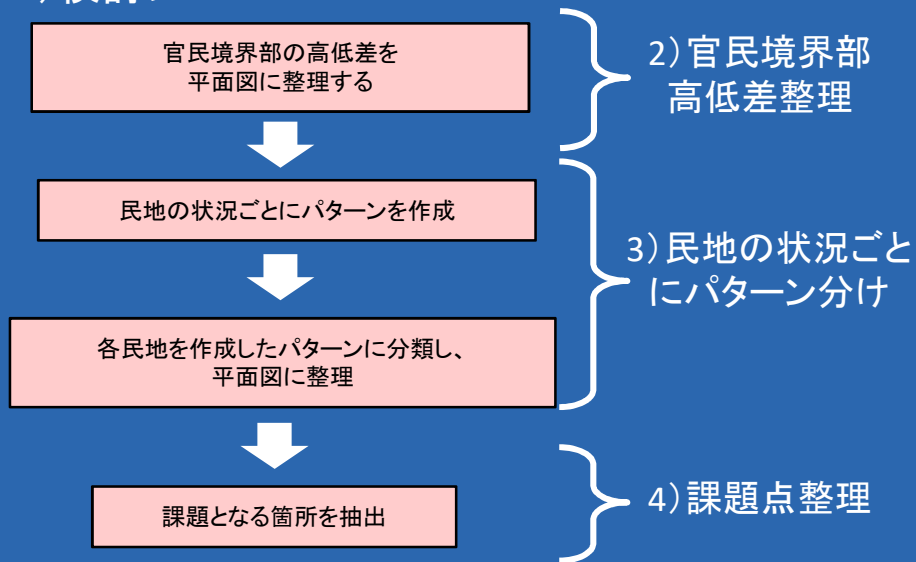
- ・幅員14mで未拡幅である
- ・民家や商店が立ち並んでいる



(2) 民地との接続部の検討

8

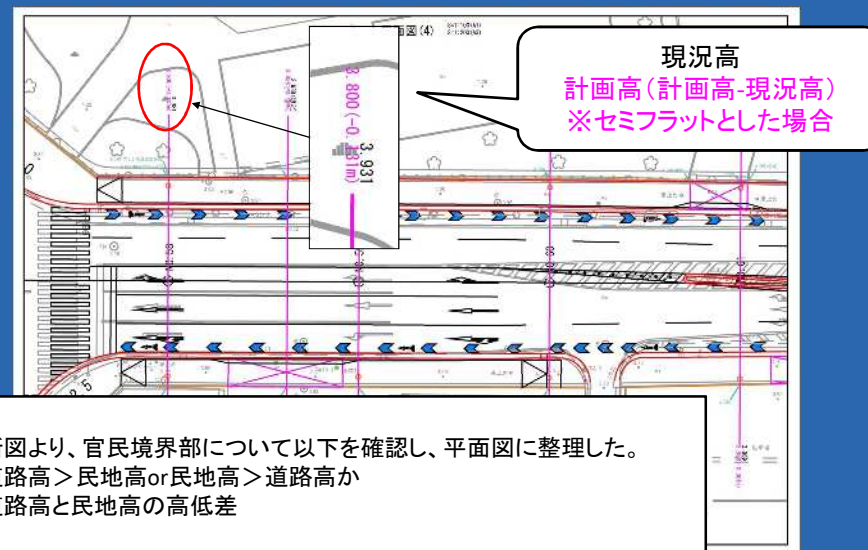
1) 検討フロー



(2) 民地との接続部の検討

9

2) 官民境界部高低差整理

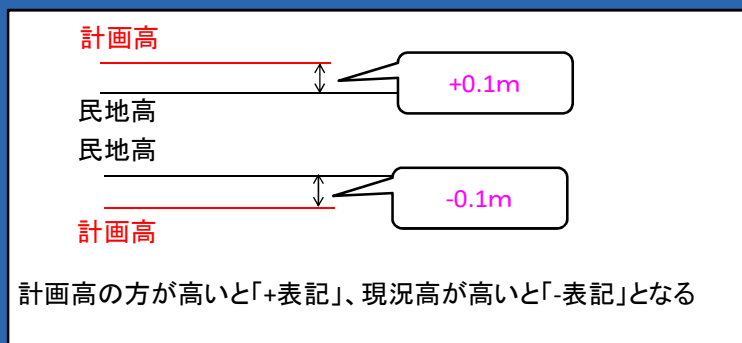


(2) 民地との接続部の検討

10

2) 官民境界部高低差整理

※高低差の表記について



(2) 民地との接続部の検討

11

3) 民地の状況ごとにパターン分け

マンションや商店等の敷地ごとに高低差、現地の状況を確認し、パターン分けを行った。

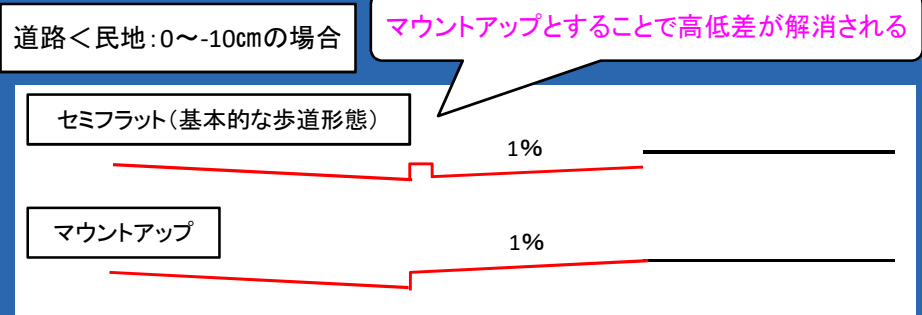
項目	内容
① 歩道内で処理可能	高低差がない箇所や、「歩道構造をマウントアップ」にしたり、「横断勾配を上限を2%まで」にした場合に処理可能な箇所
② 歩道内で処理できないが、民地内で擦り付け可能	①を用いても、処理できないが、民地内に余地があり、擦り付け可能な場合
③ 建替もしくは改修調整中	建物が都市計画線に干渉している場合、建て替えもしくは改修予定となる
④ 詳細検討が必要な箇所	①～③に該当せず、追加で測量し、詳細検討が必要な箇所や発注者と地権者の調整が必要な箇所

(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

①歩道内で処理可能

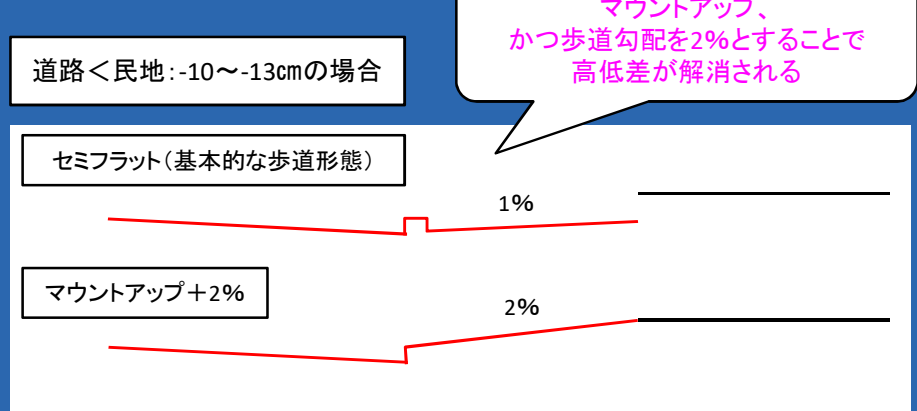
高低差がない箇所や、「歩道構造をマウントアップ」にしたり、「横断勾配を2%以下」にした場合に処理可能な箇所



(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

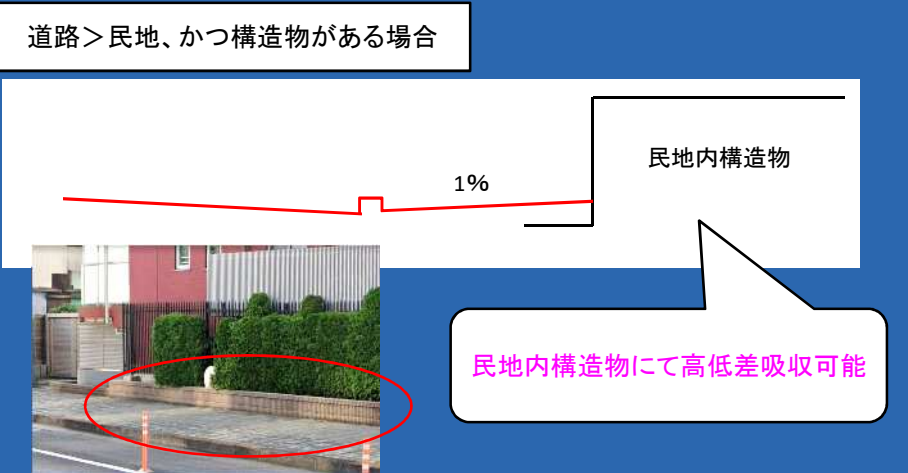
①歩道内で処理可能



(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

①歩道内で処理可能

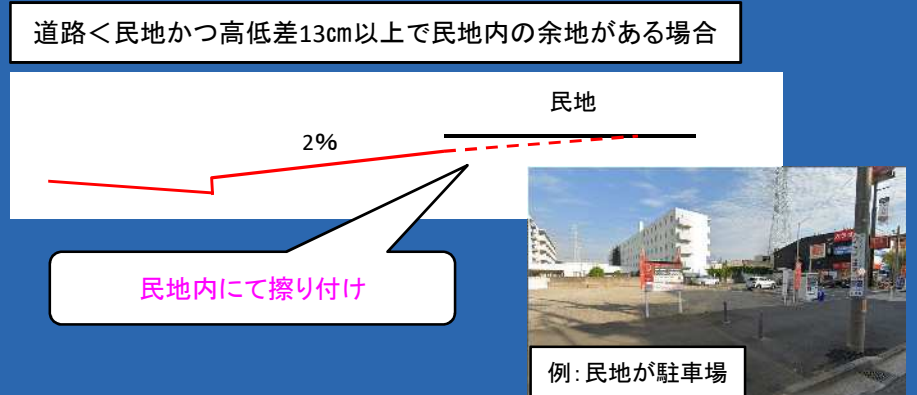


(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

②歩道内で処理できないが、民地内で擦り付け可能

①を用いても処理できないが、民地内に余地があり、擦り付け可能な場合

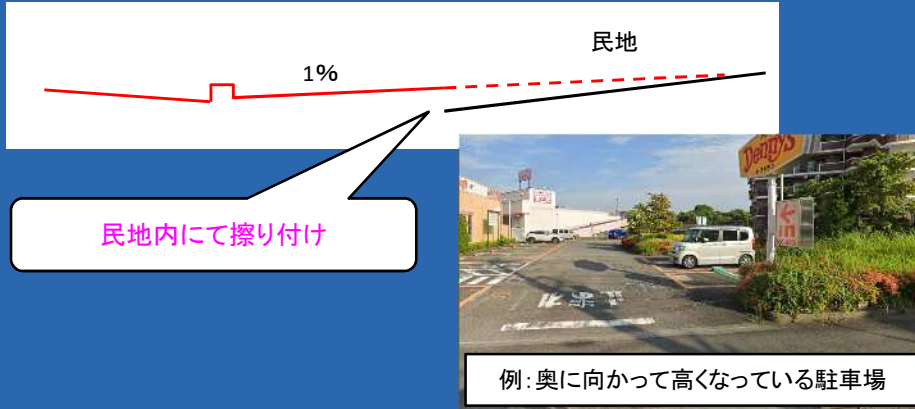


(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

②歩道内で処理できないが、民地内で擦り付け可能

官民境界部では道路>民地だが、民地の奥にて道路<民地となる場合



(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

③建替もしくは改修調整中

建物が都市計画線に干渉している場合、**建て替えもしくは改修予定となる**



(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け

④詳細検討が必要な箇所

①~③に該当せず、詳細検討が必要な箇所や発注者と地権者の**調整が必要な箇所**

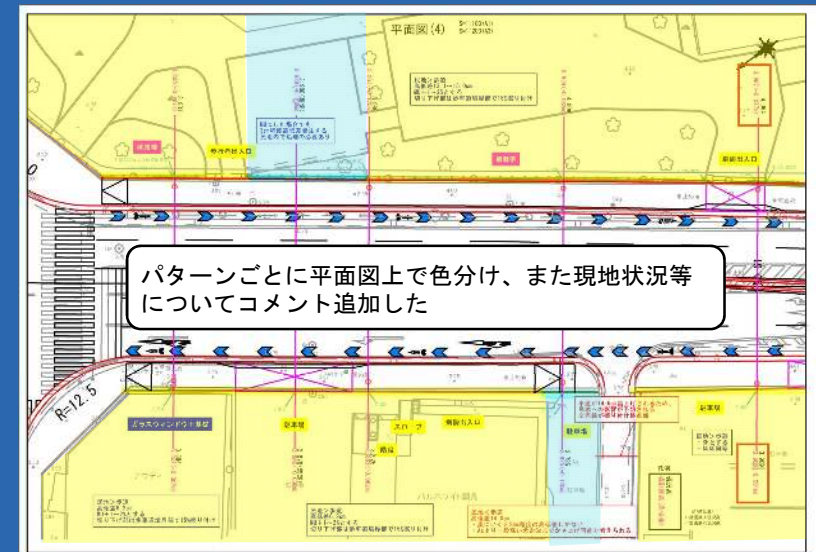
例:

- ・民地>歩道:約20cmである。
- ・民地内擦り付け方法について、詳細検討が必要となる。



(2) 民地との接続部の検討

3) 民地の状況ごとにパターン分け



(2) 民地との接続部の検討

20

4) 課題点整理

民地より道路高が高く、かつ民地内に余地がないため、**民地内改修困難**な箇所が2か所ある。検討の余地がないため、**縦断の再検討を行い、高低差を解消する必要がある。**



○ 課題となる箇所

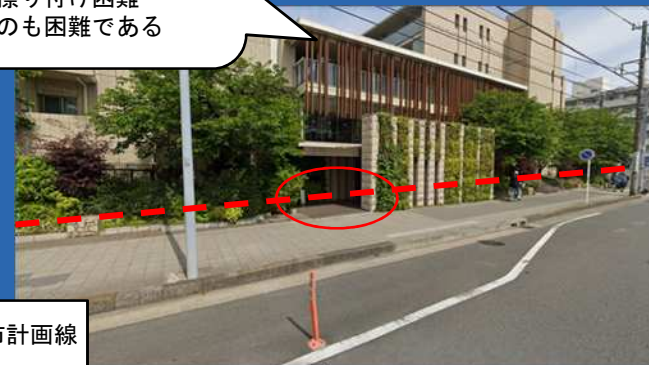
(2) 民地との接続部の検討

21

4) 課題点整理

課題となる箇所A

- ・ 民地 < 歩道
出入口高低差 : 12.8cm
- ・ 現在の高低差だと擦り付け困難
- ・ 民地内を改修するのも困難である



--- : 都市計画線

(2) 民地との接続部の検討

22

4) 課題点整理

課題となる箇所B

- ・ 歩行者出入口は高低差19.2cmであるため、擦り付け困難
- ・ 民地内を改修するのも困難である



--- : 都市計画線

(3) 縦断線形再検討

23

課題点整理にてあげた「②」の2か所をコントロールとし、高低差解消可能な縦断線形となるように再検討を行った。



赤丸部分をコントロールとした

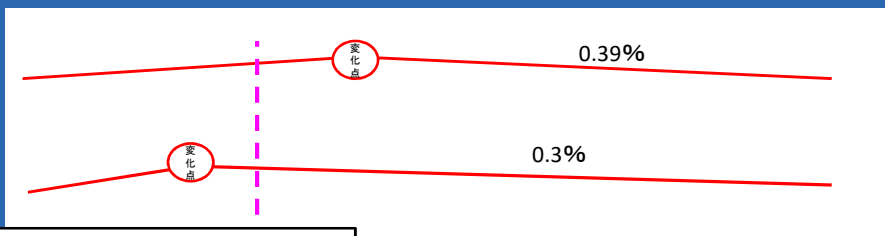


(3)縦断線形再検討

24

【Aの場合】

縦断勾配を0.39%から0.3%とし、高低差を解消した



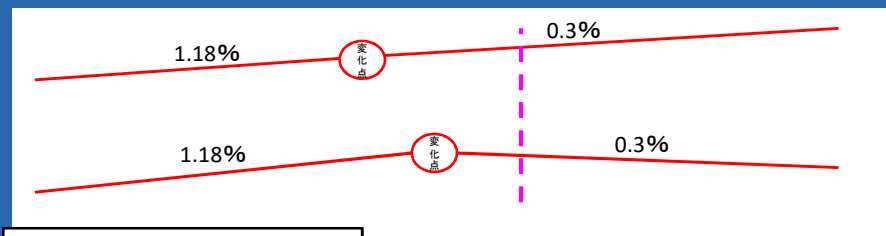
破線部分がコントロールポイント

(3)縦断線形再検討

25

【Bの場合】

凸型に変更し、高低差を解消した



破線部分がコントロールポイント

◆ まとめ

26

民地との接続部をパターン分けし、平面図にて整理したことにより、以下のような効果が得られた。

- ・計画が進行する前に、縦断線形における課題点を発見し、解消することができた。
- ・詳細検討や地権者との調整が必要な箇所が可視化され、用地交渉にも役立つと発注者から評価された。

このことから、今回紹介した事例のような作業は有用であったといえる。

END